

## talk! talk! talk! レポーター・竹内海南江さん



### レポーター 竹内海南江さん

「世界ふしぎ発見！」のミステリーハンターとしてお馴染みのレポーター、竹内海南江さん。世界中からその国の“ふしぎ”を伝えるため、年の半分は海外ロケに出る生活をしているという。そんな竹内さんが初めてカメラを手にしたのはミステリーハンターとしての初仕事でロケに行ったときだった。それ以来、ロケの際には必ず持っていているというカメラについて、先日訪れたベトナムの写真を交えながらたっぷりとお話いただいた。

#### プロフィール

たけうち・かなえ。群馬県生まれ。NHKのカルチャー番組「YOU」の司会で芸能界入り。1987年11月より「世界ふしぎ発見！」(TBS系)のメインレポーターとして活躍。ミステリーハンターとして現在190回以上番組に出演し、95ヶ国以上の国をレポートしている。1回の海外収録期間は1週間～2週間。おおよそ1年の半分は世界各国を飛び回る生活を送っている。その他テレビやCF、講演会への出演、作家としても活躍。おもな著書に「アフリカの女」(幻冬舎)「グリオの唄」(ブルースインターアクションズ)「おしりのしっぽ～旅する私のふしぎな生活」(集英社be文庫)など。公式ホームページ「かな共和国」では、すべて本人によるキャラクターデザインで、写真や、童話、詩、エッセイ等を発表している。

#### 海外ロケの必需品「カメラを持つことは習慣なんです」

写真を撮り始めたのはいつ頃からですか？

いちばん最初にロケに行くときに持っていったのが初めてですね。

いちばん最初というのは「世界ふしぎ発見！」に初めて出演したときのことですか？

そうです、そうです。初めてのロケのときに周りの友人から「どうせ海外に行くんだったら写真撮っておいでよ」と言われて、言われるがままカメラを持って行ったんです。でも実は、その友人たちはロケの間にカメラが壊れるか盗まれるかの賭けをしていたんですよ(笑)。

(笑)賭けのネタにされていたんですか？

ええ、「これ持ってけ、あれ持ってけ」って周りがあるいると言ってくれたんですが、その裏で賭けのネタにされていたんです。まあ、遊びですけどね(笑)。真相を知らないままに友人たちに乗せられて持って行ったんですが、実際は壊すこともなく、盗まれることもなく無事に帰って来ました。

でも、そのとき勧められなかったらカメラを手にすることはなかったのかもしれないですね。

そうですね、単純に荷物になりますからね。それに海外に持って行けば高価なものになりますからトラブルの元にならないとも限りませんし、きっとカメラを持って行こうなんて考えないでしょうね。

でも別に、持って行くからと言って、「よし、いい写真を撮って来るぞ」と気合いを入れて持って行ったわけではないんです。あまり何も考えず、気楽に言われた通り「はいー」って持って行って何も考えずパチパチ撮っただけで、何のこだわりもなく軽い気持ちでした。海外へは写真を撮りに行くのではなく仕事で行っているのでも、今でもこだわりはないんです。カメラはロケの合間にちょこっと押すだけという感覚のものです。

カメラはこれまでどの国にもかかさずお持ちになっているそうですね。

はい。持って行ってますね。なんだかんだと言いながら持って行かなかったことはないです。でも撮った写真に対しても特に強い思い入れもないし、本当にただ撮っているだけという感覚なんです。自分の中では撮って完結してしまうんです。だから、後でプリントして見直すこともありませんし、良く撮れたかどうかわからないので感慨にふけったりする事もまず無いですね。

では、どうして写真を撮り続けているのですか？

さあ、わかりません。なぜ撮るのかという事をあまり考えたことがないんです。写真に意味を持たせたことがないというか.....ロケのときはカメラを持つことが習慣になっているんです。ご飯を食べると一緒ですよ。時間があれば撮るし、時間がなければ撮らないし、撮れなかったらそれでいいやと思うぐらい意識していないんです。



「これは？」とうかがうと「ベトナムのブタ」と一言。「撮ったものにも特に意味がなくて」とのこと



「ではこちらは...」「ずばりベトナムのうし」ですね。わかりやすいでしょ(笑)」



3月12日に放送されたベトナムロケで撮影されたもの。ベトナムらしいお面の土産もの

#### シャッターを押すことは瞬きと同じ それぐらい自然なこと

でも、これだけたくさん各国に行かれて写真を撮っていると、これまでどんな国に行ったのか記録にはなりません。



なっていたと。

本当にその通りです。海外ロケの合間に時間が空いてしまったときに目につくものがあったら自然に撮っているだけ。日本にいるときに撮ることも、持ち歩くことも一切ありません。シャッターを押すというのは瞬きをするのと同じ感覚。それぐらい無意識なものかもしれません。

うーん、でも見直したことはないですから。まあ、老後の楽しみにはなるかもしれませんね。膨大な写真を引っぱりだして「こんなところ行ったんだな」って(笑)。

これまで行った国を写真に残しておきたいという思いがあって写真を撮り続けているのかと想像していました。

そんなことはないですよ。日記もつけないし、行った国を数えるのも途中で止めてしまいました。周りのスタッフが何ヶ国目か数えているみたいですけど。何ヶ国も行ってはいますが、私にとってはあくまでも仕事なんです。ただ日本国内ではないというだけで、感覚的には普通の人が朝起きて会社に行くのと同じ。たとえば営業マンが今日帰った会社を思い出に残そうと写真で撮ったりはしないですよね？それと同じなんです。

なるほど。

毎日趣味で日記をつけたり写真を撮っている人はいるでしょうけれど、私はそれよりも「はい、次！ はい、次！」という感じで前に進んで行くことの方が大事なんです。記録を残すというのはそこに踏み留まる事だと思うので、あまり残したいとは思っていません。だから、そういう意識で撮っているわけではないんです。

ではカメラは趣味というよりも、人に言われるがままカメラを持って行ったらいつのまにか習慣

## 違う文化の国で失礼にならないように カメラを向けるときはマナーを守って

一回のロケでどのぐらいの枚数を撮られるんですか？

だいたい100枚ぐらいでしょうか。撮れるときは200枚〜300枚ぐらい撮ることもあります。でもそれはスケジュールがきつくないときですね。スケジュールがきつときはそんなことをやっている場合ではありませんから。あとは気象条件が良くないとなかなか撮れないですね。雨続きのときは、ほとんどカメラを出さずに帰ってくることもあります。

撮影の合間に天気良ければ撮る。

はい、もちろん撮りたいものがあればですが。カメラマンが風景撮りをしているときはレポートがないので少し時間が空いたりするんです。そういうときに撮ったりするのですが、その風景のベストポジションはカメラマンがいるので邪魔にならないように、横や後ろでちゃちゃっと撮る。だから結構フォーカスがブレていることもありますよ。

被写体は風景が多いのですか？

そうですね。自分が写真を撮られるのが苦手なんです。だから人物が撮れないんです。「きっとこの人も嫌だろう」と思ってしまう(笑)。

それから、海外に出て雰囲気の良いと、つい近くで農作業している人や売り子をしている人を撮ってしまったりする事もあると思うのですが、何も声をかけないで隠し撮りみたいにパッと撮ったりするのはやっぱりよくないですよ。私が嫌だから余計にそう思うんです。だから私は、よほど仲良くなった子供たちとか以外は人物でも後ろ姿で引きで撮るぐらいですね。

急に撮られたら、中には怒る方もいるでしょうしね。

怒りますよ、すごい剣幕でつめよって来る人もいますから！ そういう経験もふまえて人物写真は少ないですね。

これまでにいるるな国の文化を見てきましたし、いろいろな考えを持った方にも会いました。こちらがお邪魔させてもらったり撮影させてもらっているのだから、やっぱりその国のルールやマナーは守らないといけないと思うんです。そうしないと後から来た日本人が嫌な目に合うんですよ。私たちがマナーの悪い行動を取ると、「日本人はみんな失礼だ」という風に見られてしまうんです。そうすると次に繋がれなくなってしまいます。

そうならないように、いつも「日本人は良い人だね」「ジェントルマンだね」って言うてもらえるように心掛けてその国々を訪れているので、私が写真を撮る事でも失礼にならないようにという気遣いはいつもしています。



珍しく(?)人物が写り込んでいる1枚。  
魚を干す作業をしているようだ

## ゴミ箱に夢中!? 生活に密着し働くものに惹かれる

特に撮りたいもの、ついカメラを向けてしまうものはありますか？

撮りたくなるというよりは向こうから「撮って」って呼ばれる感じがします。ピンと来るというか。たとえばお店のディスプレイとか電車とかオートバイとか、普通に街角にあるもの、普段あまり気にかけないようなものが気になりますね。たいがいなんてことないものなんですけどね。

なんてことはないもの？

なんとというか.....最近はゴミ箱が好きなんですよね。すっごく好きなの、ゴミ箱(笑)。

各国のゴミ箱がどんなものかを見たいということですか？

いえ、いろいろな国のゴミ箱が見たいということではなくて、ゴミって人間と凄く密着しているものだと思うんです。だから何となく人間臭さが出るんですよ。うまく言えないんですが、ゴミ箱に関わらず消火器とか、自動車とか、オートバイとか、標識とか信号機とか、生活に深く関わっている道具なんだけれど当たり前にあって見るものに惹かれるんです。

人間のために働いてくれるもの。

そうです、そうです。あとは動く車もいいですね。掃除をしている清掃局の車とか、トラック、クレーン車も好きなんです。工事現場なんてずっと見ていて飽きないですから。

同じ働くものでも、新しいものを使い込まれているものだとやっぱり使い込まれている方が好きですね。特に、古いのだけちょっとと手入れされているものを見かけたりすると、ものなんだけど生命力があるように感じるんです。それで、これはベトナムの公園にいたペンギン。

置き物ですか？

これがゴミ箱なんですよ。ゴミ箱を撮るといって、凄く汚いものを想像するような目で「ゴミ箱撮るんですか！」なんて反応されるんですけどね、でも違うんですよ。ちゃんと働いているゴミ箱はかわいいんです。これだったら子供も大人もみんなゴミを入れるでしょう？ 雨風にさらされてハゲているのもまた面白い。こういうものを見ると「あー、素敵なゴミ箱ー！」なんて言って走って撮りに行きます。周りからはいつも「また変なの撮ってるよ」「いったい何を撮っているの？」って言われてますけどね(笑)。



口にボンとゴミを入れるようになっている

## 悩むなら動いてしまえばいい！ 食わず嫌いをせず、とにかくなんでもやってみる

先程、この仕事は前に進んで行く事が大事だとおっしゃっていましたが、それはなぜですか？

元には戻れない、やり直しのきかない仕事ですから。スケジュールが決められていて、その町を出てしまったら「あ、撮り損なっただ！」なんて言っても戻れないんです。一筆書きみたいにピューンと行って帰って来なくてはいけない。やり残しがあってはいけ



ないんです。  
そういう仕事をしていると、自分の行動も考え方もどうしても段取り良く一筆書きになってきちゃうんですね。

そういう生活が苦になったことはないのですか？

全く無し（笑）！もともと後ろを振り返らない性格なんです。考えたり悩んだりして立ち止まるぐらいならとりあえず動いてしまう方が早いと思うタイプですから。だって時間ももったいないでしょう？悩んでも悩まなくても、決断を下すのは結局自分。その結果がどうであれ自分で責任を取ればいだけのことだから、だったら時間を無駄にしたくはないんです。

このレポーターの仕事はそういう意味で天職なのかもしれませんね。

さあ.....？他の仕事をしたことがないですし、そういうことを考えたことがないのでよくわかりません。だいたいこだわりもないんです。“こだわらないのが私のこだわり”っていうぐらいなもので（笑）。

ただ機会があれば、どんなことでも食わず嫌いをしないでやってみることはしています。「世界ふしぎ発見！」も「やってみませんか？」「やります」と言って始めた仕事なんです。出来たら出来たでいいし、自分に合うか合わないかは後から結果としてついてきますから。最初から結果を予測して動くくらいつまらないことはないですよ。

「世界ふしぎ発見！」のミステリーハンターは17年以上になるそうですね。そうやって始めたことが、ここまで長く続けてこれたということに何か思うところはありますか？

続けることが目的ではないのですが、継続するということは力になるのではないかと思います。だから、やり始めたらとらず長く続けたいと思っています。どうなるのかはわかりませんが、とりあえず長くやっているうちにおのずと結果が出てくると思いますし、そうすれば何かおまけもついて来るのではないかと考えています。

「世界ふしぎ発見！」については、何か素敵なおまけはついて来ましたか？

いや、まだまだ！まだまだ、まだまだですよ。まだまだ、まだまだ.....。

（笑）まだまだ、ですか？

ええ、全然ですよ。まだ入り口に立ったばかりくらいだと思います。だからね、これからもどんどん継続あるのみですね。

[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.